

兵庫県こころのケアセンター 令和5年度実施分に係る
外部評価委員会 事業評価

| 評価対象事業 | 評価 | 所 見 |
|------------------------|----|---|
| 研修事業 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・こころのケア研修について、対面研修とWeb研修を組み合わせ、受講者数の年間目標を大幅に超えることができたことは高く評価できる。 ・コロナ禍の影響も軽減し、WEB研修から対面研修でのグループワークへの変更等から、参加者の満足度アップにつながった。 ・こころのケアの重要性が高まっている中、関係者育成の社会的必要性・有用性は高い。 ・こころのケアに関わる保健・医療・福祉さらに警察・消防等、幅広い関係者に対して、いずれの領域でも注目されている「子どものPTSDのアセスメント」「TF-CBT Introductory Training」「PTSD構造化面接-CAPSを理解する」をテーマとする研修は、受講者のニーズに合致している。 |
| 情報の収集 発信・普及 啓発事業 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・こころのケアシンポジウムについては、近年保健医療福祉現場でその重要性が注目されている「トラウマインフォームドケア」をテーマにし、会場とオンラインを活用して約250名の参加を得、参加者からのアンケートも高評価であったことは意義深い研修だったと評価できる。 ・ホームページのアクセス数が年間目標を大きく上回り、情報発信源として評価されている。引き続き、わかりやすい情報発信に期待する。 |
| 連携・交流 事業 | S | <ul style="list-style-type: none"> ・災害が頻発する日本での災害派遣精神医療チーム（ひょうごDPAT）活動は重要で、引き続き、DPAT研修等、継続的な精神保健活動の支援が進められたことは高く評価できる。ひょうごDPATの常設にむけた研修会の実施、関西地域における連携強化が、支援体制の充実につながっている。 ・災害支援のほか、自殺関連、消防関係の危機対応支援など、幅広い支援を行っており、必要に応じて現地に赴き、個別支援や関係機関へのコンサルテーションを実施するなど、積極的なアウトリーチ活動も評価できる。 |
| 相談事業 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・被害者支援、トラウマ、PTSDといった医療・相談機関等で対応しづらい複雑困難な事例相談を多数受けており、当センターの専門性が活かされている。 ・トラウマ、PTSDの専門性が認識され、関係機関や医療機関との連携が進み、当相談室がこの地域で重要な役割を果たしていることが分かる。 ・インテーク会議を定期的に行い、インテーク件数が104件と目標件数の70件を大きく超えており、目標値の見直しを考える必要がある。 ・ホームページを工夫し、PTSDに特化した相談内容を増やし、センター附属診療所へつなげるケースを増やしていることも評価できる。 |

| 評価対象事業 | 評価 | 所見 |
|---------------------------|----|---|
| 附属診療所の運営 | S | <ul style="list-style-type: none"> ・未成年者のトラウマ治療を行える施設は少なく、初診の約 30%が未成年者であることは、存在意義を大きくしている。 ・受診者数について、年間目標件数に近い実績となっている。事件、事故、犯罪、DV等取り扱うケースの困難さのなか、トラウマに特化した専門治療が実施され、専門的診療機関としての機能が発揮されていることは高く評価できる。 ・子どものトラウマ・PTSDの専門機関であることの社会的必要性・有用性が高く評価できる。 ・開設後、20年が経過し、トラウマ・PTSDの専門治療機関として、研究報告としてまとめていただきたい。 |
| ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座） | A | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響による施設実習の制限が解除になり、専門講座修了者 12 人が実践経験を実施し、目標値を超えることができたことは評価できる。 ・実践経験者修了者を対象に審査を行い、9 名について新規認定ができたことも役割を果たしている。 |
| ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座） | A | <ul style="list-style-type: none"> ・3 講座が実施され、受講者数の目標を達成し、アンケートも満足度が極めて高くなっており、県民ニーズに込えている。 ・引き続き、社会的課題解決に必要な情報・技術の提供を目指した講座企画、効果的な受講案内、受講者の増加に期待する。 |
| 安定的な運営のための収支バランスの確保等 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・複雑性PTSDなど時間を要し治療が困難なケースが増えていることから、診療件数は減少しているが、ホームページ等による広報やインテーク会議の定例化等の工夫により、年度計画を概ね達成している。 ・診療収入自体は減となっているが、宿泊室の利用者数の増加に務め、黒字になっている。運営に困難なところは多々あるが、運営努力が認められる。 ・働き方改革が進められているなか、引き続き県庁所管課等とも調整いただきたい。 |
| 研究調査に係る総合的な評価 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・「災害後の子どものこころのケアのための人材育成についての研究」では、CAPS-CA-5 日本語版の信頼性と妥当性検証されたことは、臨床面において意義がある。 ・競争的資金による研究では、5 件の外部研究資金による研究に取り組みされており、センターの研究者と研究テーマが高く評価されていることが分かる。 ・長期 3 件、短期 4 件、科学研究費助成等も 5 件行われており、一定の水準を満たしている。 ・短期研究で取り組まれた 4 題とも、今日の精神保健医療福祉にとって重要かつ、こころのケアセンターならではのテーマである。関心のある研究者がホームページで参照できるようになっている点など評価できる。 |

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。